

# よくいわれる「投資信託」ハッシングについて どう考える？

最近雑誌などで、「投資信託を買ってはいけない」「この記事を目にします。よくあることですが株価が低迷してくると、投資信託に対する風当たりが急に厳しくなってきました。ほとんどの記事が、運用成績の悪さと手数料の高さを理由に投資信託の購入を考え直すべきであると伝えていきます。これらは正鵠を得ている点もありますが、行き過ぎた批判といえるものもあります。

せっかく投資信託に興味を持っている方に冷静に判断してもらうために、批判される理由について、その背景と考え方を解説していきます。

「運用成績の悪さ」についての考え方  
まず、運用成績の悪さですが、株式市場が低迷している局面では、往々にして投資信託も値下がりしています。

手数料が高すぎるのではないかという議論も、多いようです。特に、販売時に投資家が支払う手数料は3%程度が中心で、ネット証券などの登場で株の売買手数料が下がっている中、異様な存在として見られています。本来、この販売時の手数料は、購入者に提供したサービスの対価とされています。ところが、販売時に十分な商品説明やリスクの存在などが説明されていないため、投資金額が目減りしている投資家から見れば、値下がりしよつとしまいと3%の手数料が入る販売会社には不満を感じるのは当然のことでしょう。「ごのような時に値下がりする可能性があるか」などといった、商品の説明と購入者にそれが相応しいものかのアドバイスを販売会社には求めたいものです。質の良いサービスなら、投資家はお金を払うはずですよ。

「投資信託より株式の旨」についての考え方  
こつこつした批判のほかにも、長期投資や分散投資に対して疑問を投げかけるような意見も出ています。そ

多くの投資信託は、株式市場など投資先市場の「値上がり局面」「値下がり局面」「停滞局面」のすべてを経験したあとに結果として、市場を上回る成果をあげていることを目標にしています。したがって、株式市場が下がっている局面の値下がり幅だけを比較しても、それだけで運用能力を判断できるとはいえません。いろんな市場のコンディションを経験した上で、運用の優劣を比較するべきです。したがって、99年や2000年から運用がスタートした投資信託の運用成績の本当の優劣は、株価が回復した時にその成果が見えるはずですよ。だからこそ、少なくとも3年の運用成果のない投資信託に大金をつぎ込んではいけないといわれるのです。

「手数料の高さ」についての考え方  
こつこつした意見の最後は、必ずといって良いほど、個別株投資を勧めています。しかし、すべての人が個別の株を購入できる資金を持つわけでも、個別の株を選ぶために時間を使えるわけではありません。私たちが最もお金を稼ぐために使うべき時間と労力は、今現在の仕事のはずです。その余力で資産運用を考えるとすれば、投資信託は適切な商品ですよ。

ただし、まだまだ、改善すべき点が多いことも確かです。悪い点があるから投資信託を排除してしまつては、個人投資家にとつての資産運用の手段を一つ失つてしまつことになります。よりよく利用できるために、投資家として意見を発信していかなくてはいけません。少しずつ、お客様の方を向いた販売会社や運用会社が出てきています。そんな会社の応援をしながら資産運用をするほうが、投資信託を排除して株式投資に時間をかけるより効率的といえるでしょう。

本章では、こつこつした現状を踏まえながら投資信託の現状について、詳しく解説していきます。